

## ご挨拶

熊本大学沿岸域環境科学教育研究センターは、有明海・八代海を中心とする沿岸域環境に関する幅広い教育研究を行ない、地域社会へ貢献することを目指しています。ご存知の通り、有明海・八代海は熊本県の西側全域が接している海域で、干満の差が極めて大きく、沿岸域には広大な干潟が形成されています。また、希少・貴重な動物種が数多く生息しているなど、この海域は世界的に見ても特異なものとなっています。ところが最近、生物多様性の減少、漁獲量の激減、赤潮による養殖漁業の被害、諸々の原因による環境悪化、台風による高潮災害など、多くの問題が発生しています。

沿岸域センターの平成 20 年度の活動としては、従来から展開中の 2 つの研究プロジェクト「沿岸域における生物多様性と生物資源の保全に関する研究」と「閉鎖性沿岸海域環境に関する先端科学技術研究」をさらに進めるとともに、その支援体制の学外協力研究者制度も十分に機能させてきました。各研究グループは 2 つのプロジェクトの下に、海産生物の多様性や水産生物資源の調査研究、干潟沿岸域環境の保全・開発・防災などの研究を、他大学、国土交通省、環境省、熊本県、熊本県内漁協、地元企業などと連携して実施しています。また、有明海・八代海の海底環境の変遷分析、養殖ノリの色調発現機構の分子的解明や有用新品種の分子育種も他大学や熊本県水産研究センターおよび県内企業と共に進めています。さらに、平成 17 年度に採択された文部科学省の科学技術振興調整費による「有明海生物生息環境の俯瞰型再生と実証試験（滝川清教授）」を精力的に遂行しています。また、20 年度採択の熊本大学拠点形成研究 B「閉鎖性沿岸海域における環境と防災、豊かな社会環境創生のための先端科学研究・教育の拠点形成」には、センター専任教員全員が一丸となって取り組んでいます。

このような研究成果を地域に直接的に還元するために、市民公開講座の開催や県内外の大学や県内の小中学生・社会人への臨海実習の実施、高校と大学との連携教育事業の実施なども行なっています。また、各スタッフは、国・県・自治体などの審議会や委員会の委員を務めたり、各種団体や企業に対する技術指導を行ったり、NPO と連帯したりして、有明海・八代海の再生とより良い沿岸域環境の創造に向けて多方面から社会に貢献しています。

本講演会は、私たちの研究活動の一端を皆さんにお知らせし、研究成果を地域に還元することを目的としています。今回は、沿岸域センターの 5 名の専任教員と 2 名の客員教員に加えて、2 名の学外協力研究者(長崎大学・佐賀大学)にも講演をお願いしました。講演内容は、沿岸域環境に関する基礎研究から応用分野の保全・再生・防災まで多岐にわたっています。限られた時間ではございますが、ご静聴の上、熱心なご討議やアドバイスをいただければ幸いです。

熊本大学沿岸域環境科学教育研究センター  
センター長 内野 明德